

## えいらい

No.15

平成 25 年 1 月発行

発行元／財団法人永頼会 松山市民病院

新年号  
2013〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026  
発行責任者／院長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

## 年頭挨拶2013

～信頼と実践—病院変革期を迎えて～

院長 山本 祐司



2013年の新春を迎え、関係各位の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。日ごろは松山医療圏の地域連携や救急医療において、私ども松山市民病院が大変お世話になりありがとうございます。

昨年は、原発再稼動とエネルギー問題、金環日食、ロンドンオリンピック、ノーベル医学生理学賞など話題が途切れることなく過ぎました。中でも、医者としてスタートし研究者となった山中伸弥教授が、この日本で成功したiPS細胞技術でノーベル賞を受賞されたこと、大変感銘を受けました。臨床応用へのロードマップも現実となりつつあり、今後も生命科学分野において世界の注目が続くことでしょう。

政治情勢では、師走の総選挙で自公政権が復活しました。国民が求める景気・雇用の回復は、とにかくニーズに応じておカネが世の中にくぐる廻り、ヒトやモノが動くようにならないと実現できません。まずは安倍政権の政策の実践手腕に期待がかかります。

医療界、特に病院団体では、病院の機能分化が進む中で、入院基本料の見直しをめぐり「病院単位」から「病棟単位」に変更、あるいは大都市以外ではそれらの選択制を求める意見が出てきています。都市部でも少子・高齢化が進むため、看護師確保困難とあいまって、従来の院内完結型あるいは複合型でも生き残りを図るべきとの見方も示されました。

さて、今年のスローガンは「信頼と実践」を掲げます。「信頼」は財団法人永頼会の呼称にも通じます。「萬世永頼」という中国古典の故事熟語に由来しま

すが、永遠の「永」に信頼の「頼」—地域で永遠に「信頼」される、頼りにされる病院でありたいという願いです。「実践」は、物事を試行錯誤しながら、その方向性を失わず行動し、実行・実現することに通じます。

今年は、免震構造の新S棟建設第一期工事と並行して、電子カルテやSPD(物品管理)システムなどが導入され、職員一人ひとりが新しい何かに取り組み「実践」する年になります。既存のN棟も救急車搬入口とERを新設し、救急医療の「実践」的動線を確保します。

増改築資金としては、耐震化特例補助金とこれに関連する低利の公的融資を活用し、加えて医療機器・設備投資では、地元金融機関からの貸付けを最大限利用できる見通しが立ちました。一連のプロジェクトにおいて、職員や関係各位の皆様の貴重な意見に耳を傾け、その知恵と力を結集して対応した成果だと思えます。

巳年の「巳」は、原字は頭と体ができかけた胎児を子宮が包むさまを表わし、生長が極限に達して次の生命が作られ始める時期をいうそうです。今春4月に当院は制度改革により一般財団法人永頼会へと移行します。

このような新しい息吹が感じられる病院変革期を迎え、職員一同、地域医療における「信頼と実践」のスローガンが、あらゆる場面で活かされるよう努めたいと思います。関係各位の皆様と松山市民病院との交流・連携をよろしくお願ひし、年頭の挨拶とさせていただきます。